

注目の自治体施策

ブルーフラッグ



高浜町 若狭和田ビーチ

ビーチの国際環境認証『ブルーフラッグ』を

アジアで初めて取得

アジアで初めて取得

高浜町にある若狭和田ビーチ

には、環境省が認める「快水浴場100選」に選ばれたビーチがあります。今年4月、この若狭和田ビーチがビーチやマリナーの国

際環境認証であるBLUE FLAG（ブルーフラッグ）をアジアで初めて取得いたしました。

ブルーフラッグはビーチ・マリナーの国際環境認証で、取得するには、4項目33基準の厳しい基準があり、クリアしたビーチ・マ

リーナにのみ「優れたビーチの証」として世界的に認定されます。いわば「快水浴場100選」の国際バージョン！この認証を受けるために必要な審査項目は大きく分けて①水質②環境教育③ユニバーサルデザイン④監視・緊急対策の4分野あります。

高浜では美しい海を次の世代へ残していくために「100年後もキレイな海を子どもたちへ」を合言葉に、町では海を核としたまちづくりに取り組んでいます。

高浜町の若狭和田ビーチ全景

高浜町におけるブルーフラッグ取得に向けたあゆみ

時期	内容
2013年10月	<ul style="list-style-type: none"> ●第1回「ジェットスキー対策会議」開催、主に海水浴場における水上バイクの規制および密漁対策に関して、関係者が集まって議論を始める ●FEE Japanが、「快水浴場百選」選定場所がある自治体を対象に、ブルーフラッグに関するアンケート調査を実施 ●高浜町内でブルーフラッグに関する資料収集や現状把握、条件整理等を開始
2014年 1月	<ul style="list-style-type: none"> ●役場まちづくり課、観光協会でFEE Japan訪問、認証取得に関するヒアリングを実施
3月	<ul style="list-style-type: none"> ●高浜町議会でブルーフラッグを紹介、認証取得に向けて取り組むことを承認
4月	<ul style="list-style-type: none"> ●「高浜町の海岸を守り育てる条例」施行、同時に「高浜町海のルールブック」策定 ●第10回「ジェットスキー対策会議」開催、会議名称を「安心・安全な海構築会議」と改名し、議論の対象をビーチの管理運営全般に拡大
5月	<ul style="list-style-type: none"> ●第1回海浜パトロール実施、以降、継続的に実施
6月	<ul style="list-style-type: none"> ●環境省の平成26年度「地域活性化に向けた協働取組の加速化事業」に、高浜町のブルーフラッグに関する取り組みが、地方事業のひとつとして採択
9月	<ul style="list-style-type: none"> ●湘南ビジョン研究所主催「ブルーフラッグフォーラム」に参加
10月	<ul style="list-style-type: none"> ●海岸ボランティア清掃 ●様々な条件を検討した結果、まずは和田海岸での認証取得をめざす方針を確定 ●「ブルーフラッグシンポジウム」開催
11月	<ul style="list-style-type: none"> ●若狭和田観光協会総会においてブルーフラッグの説明会開催
12月	<ul style="list-style-type: none"> ●和田地区委員会にてブルーフラッグの説明会開催
2015年 2月	<ul style="list-style-type: none"> ●環境省にてブルーフラッグの取組みを報告 ●第1回ブルーフラッグ推進部会開催 以降ほぼ毎月開催
4月	<ul style="list-style-type: none"> ●2016年度ブルーフラッグ認証取得の申請にエントリー
5月	<ul style="list-style-type: none"> ●2015年度の海浜パトロール開始 ●平成27年度「地域活性化に向けた協働取組の加速化事業」に前年より継続して採択 ●広報誌「BLUE+」第1号発刊
6月	<ul style="list-style-type: none"> ●和田海岸にて「若狭パドリングフェスタ」開催（悪天候で当日は中止）
7月	<ul style="list-style-type: none"> ●「若狭高浜海のルールブック」改訂 ●海水浴場開設期間（7月11日～8月16日） ●水質調査、ごみ測定、環境教育プログラム実施 ●FEE Japan和田海岸申請現地審査
9月	<ul style="list-style-type: none"> ●「全日本ライフセービング選手権大会 西日本地区予選会」が和田海岸で開催 ●広報誌「BLUE+」第2号発刊 ●2016年度ブルーフラッグ認証に向けた正式版申請書類提出
10月	<ul style="list-style-type: none"> ●「ブルーフラッグ交流会」開催
2016年 2月	<ul style="list-style-type: none"> ●FEE Japan国内審査委員会（通過）
4月	<ul style="list-style-type: none"> ●FEE 国際審査委員会（通過）

ブルーフラッグ 取得のメリット

① 100年後も高浜のキレイな海・自然を子どもたち・孫たちへ

高浜では昔から「海を守る」という風土が根付いています。ブルーフラッグの取組みを広げること、そういった伝統を風化させないよう、若い世代へ・多くの人へ海が存在や環境について考える・行動する機会と、そこに携わる人を増やします。

② 高浜らしい教育・遊びの場を提供することで、地元愛を育てる。世代を越えた交流の場を提供。コミュニティの繋がりを強くします

審査項目のひとつに「環境教育活動」があります。例えば、海の生き物観察・環境学習・海の食育・魚のさばき方教室など、活動は様々です。高浜にはこういった体験学習の場が、たくさんあります。ブルーフラッグの取組みを広げること、こういった素晴らしい取組みを今よりも多く、定期的に開催し、もっとたくさんの方に提供します。

③ 町の活性化につながる

ブルーフラッグは、自然の保護に加えて、地域の活性化も大きな目標になっています。高浜の海にブランド価値が付くことで、国内外から高浜を訪れる人が増え、町が活気づきます。それは雇用を生み出すことにもつながり、若者が働ける町、また戻って来れる町、移住者にも魅力的な町になります。



海の生き物観察会

具体的な取組み

認証基準	2015年	2016年
環境	<ul style="list-style-type: none"> 海水浴客を巻き込んだビーチクリーンキャンペーンがスタート 煙草の分煙、禁煙等を検討 ビーチクリーンを楽に&楽しくするオリジナルグッズを検討 	<ul style="list-style-type: none"> ビーチクリーンの実施体制を整備、拡大 ゴミ回収の実施体制を整備 トイレにハンドドライヤーや、環境に配慮した石鹸を設置 4種類以上に分別できるリサイクル対応ゴミ箱を設置
監視・緊急対策	<ul style="list-style-type: none"> 水難救助やライフセーバーの活動を広報 ビーチの安全性が、日本ライフセービング協会によって認められる（日本発☆） 	<ul style="list-style-type: none"> 水難救助員やライフセーバーの活動支援 レスキュー機材の整備 水難救助員やライフセーバーの活動を広報
ユニバーサルデザイン	<ul style="list-style-type: none"> 障がい者専用駐車場の設置 車イス対応トイレの追加整備 「Happy Smile in 高浜」（障がいのある子どもたちに、海を楽しんでもらうイベント）の開催 	<ul style="list-style-type: none"> 若狭和田ライフセービングクラブの救護所で、障がい者用のトイレやシャワールームが利用可能に 水陸両用の特殊車イスが1台利用可能に 子どもや外国人にも分かるよう、イラストを使用した情報看板を設置
環境教育	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクトWET（体験型の水の環境教育プログラム）の指導者講習会を2回開催 ふれあい広場での水オリンピック体験開催 子ども会でのプロジェクトWETレッスン実施 和田公民館における生き物観察などの環境学習プログラムの実施 	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクトWETの講習会やレッスンを受けられる機会が増加 海の生き物観察会などを受けられる機会が増加

今後の課題

ブルーフラッグの認証は、一度取得して終わりではなく、1年ごとに更新を行う必要があります。認証を取得し続け、その効果を地域で実感できるようにするには、

水難救助員（ライフセーバー）の充実、地元観光事業者によるブルーフラッグにふさわしい商品・サービスをづくり、環境教育プログラムを継続的に運用できる体制づくり、来訪者のマナーの向上、泳者とそれ以外の利用者の棲み分け、地域住民の海に対する関心の高揚、それらを含めた高浜の海のブランド価値の向上など、まだまだ多くの課題があります。

国際環境認証を活用した、海のまちの活性化への壮大な挑戦は、まだ始まったばかりです。

（文責）高浜町産業振興課

主査 米川 浩司



海水浴期間中は、毎日海水浴客と一緒にビーチクリーン